



## 共同研究 「アジア都市の生活圏」

## マレーシア・ペナン調査

所員 神奈川大学法学部准教授 石井 梨紗子

## 1. はじめに

2024年2月21日から23日までの3日間、「アジア都市の生活圏」研究会メンバーの5名でマレーシア・ペナン島の現地調査を実施した。

ペナン市街地のジョージタウンは、2008年、マラッカと共に、「マラッカとジョージタウン、マラッカ海峡の歴史都市群」としてUNESCO世界文化遺産に登録されている。登録に際しては、以下の各点が「顕著な普遍的価値」(OUV)を有すると認められた<sup>1</sup>。

- マレー、中国およびインド文化と、ヨーロッパ植民地の影響の交流を通じて築かれた類稀な多文化交易都市であること(ユネスコ評価基準 ii)
- 多様な宗教的建造物、少数民族地区、言語、信仰・祭典、舞踊、衣装、芸術・音楽、食物、日常生活など、アジアの伝統とヨーロッパ植民地の影響を受けた有形無形の文化遺産の存在(同上 iii)
- 諸文化の影響を受けた独特の建築、文化、景観、特にポルトガルやオランダ統治時代にまで遡る多様な形状のショップハウスやタウンハウスの広がり(同上 iv)

## 2. UNESCO世界文化遺産登録に至る経緯と管理体制

Penang Heritage Trust(PHT)の代表Lim Gaik Siang氏によると、ジョージタウンの世界文化遺産登録は、PTHを中心とした「人々のイニシアティブ」が、当時荒廃していたペナンの歴史的建造物を守るために、地域一帯の保全を求めてUNESCOに積極的な誘致活動を行った結果だという。

こうした草の根の取り組みが生じた背景には、2000年に「家賃統制令」が撤廃されたことが挙げられる。1966年に施行された「家賃統制令」は、戦前に建設された建造物を対象に、家賃を実勢水準以下に据え置き、借家人を保護したもので、都市への人口流入に伴う住宅需要への対応と、都市スラムの発生を防ぐための政策として導入された<sup>2</sup>。結果として、ジョージタウンの旧市街地に広がるショップハウス群は、不動産の再投資や管理が行われないままに老朽化し、多くの空き家が生じるようになった。一方で、ディベロッパーによる再開発から免れたことで、その歴史的な街並みは保たれることになったのである。

世界文化遺産として登録された地域は、コアゾーンとバッファーゾーン合わせて7地区259.42ヘクタールにおよび、5,238軒の歴史的建造物が残されている。UNESCO

が評価した多文化が共生する独特の景観は、街中を少し散策するだけでも味わうことができる。



写真1: 慈濟宮(葉一族の氏神を祀る寺)

登録地域の文化保全を管理する体制としては、州政府の文化遺産管理局とその指名を受けた Technical Review Panel (TRP)<sup>3</sup> が新規開発事業の審査を行う他、2010年に Gorge Town World Heritage Incorporate (GTWHI) が設立され、登録地域の管理監督を担っている。



写真2: アーチン・ストリート・マレー・モスク

ただし、GTWHIは文化遺産保全の規則違反に対して懲罰を与える権限は有していない。また中央政府による文化遺産地域再生資金の受け皿として、Think Cityという団体が政府と地元住民の間をつなぐ組織として機能している。

## 3. 観光地として消費される人々の生活

世界文化遺産への登録は、ジョージタウンの人々の生活にどのような変化をもたらしたのか？まず不動産価格は、国内外の投資家の参入によって、登録後の10年で実に10倍ほどに値上がりした<sup>4</sup>。統制が外れたショップハウスの家賃も高騰し、多くの住民、特に貧困層は退出を余儀なくされた。2009年に1万人ほどいた域内の居住者は、2019年には7,000人を切っており、その構成も外国人居住者の比率が高まりつつある<sup>5</sup>。

また観光客が急激に増加したことで、ホテル、レストラン・カフェや土産物屋の数も激増した。伝統的な商売



写真3: アルメニア通りの土産物屋

が行われていたであろうショップハウスのテナントは、観光客向けの店舗に取って代われ、そこでは標準化された商品—従来地元では消費されてこなかったような類の飲食や土産物が販売されている。

ペナン州政府がペナンを「芸術の島ペナン」として宣伝したことも、街の景観を大きく変えてきた。2012年にリトアニア出身の若手アーティストの Ernest Zacharevic 氏が、ジョージタウン・フェスティバルの一環としてペナンの人々の生活を描いた壁画を提供したことをきっかけに、壁画とワイヤーアートによる「ストリート・アート」が街の至る所に出現するようになった。これらは外国人観光客の評判を呼び、多くの観光客が住民の生活圏である旧市街地の路上に溢れて写真を撮る光景が日常化する結果を招いた。


 写真4: Ernest Zacharevic 氏による作品「自転車に乗る子ども」  
(アルメニア通り)


写真5: 街角のワイヤーアート



写真6: Lim (林) Jetty

水上生活村である Clan Jetties (姓栈橋) もまた、世界文化遺産登録によって観光地化された生活圏だ。元々は福建省から移住してきた華人たちが、出身村や姓ごとに栈橋と水上家屋を築いて住み着いた場所である。Jetty によっては観光客の出入りに時間制限を設けてはいるが、人々の日常は観光客の撮影対象として観光資源化していることには相違はない。

このような「オーバーツーリズム」の状況と、上述のような文化遺産地区の人口の変動は、「生きた遺産」としてのジョージタウンのあり方に大きな課題をもたらしている。地元住民とのワークショップにおいても、日中に観光客で賑わうのみで夜間はゴーストタウン化してしまった現在のジョージタウンの姿は「魂のない街」のようであり、決して住民が望んだ結果ではないという指摘がなされた。また、無形文化財の保全と継承という観点からも、課題は大きい。PHT は伝統的な産業や伝統工芸を目録化しその保全に取り組んでいるが、そもそもの無形文化財の担い手であった住民の流出が抑えられない状況がある。州政府はショップハウスに居住する賃借人が一定の家賃で継続的に居住できるよう、所有者に補助金を出す Seed Fund プロジェクトを開始したが、対応策はまだ不十分だ。観光地化が進んだ中心街から外れたバッファゾーンの通りでは、人影もなく荒廃したショップハウスが並んでいる様子も見受けられた。

2016年に刊行された世界遺産地域の保全と管理に関する Special Area Plan (SAP) の策定においては、公聴会を通じて地元住民の声を反映させる努力がなされた。GTWHI や Think City も、文化遺産地区の管理運営において住民参加の重要性を認識している。中華系マレー人が多いジョージタウンでは、歴史的に市民団体の活動が活発で、住民が積極的に行政に参加する文化的土壌があるという。一方で、低所得者層を含む多様な「地元住民」が、文化遺産の意味を理解し、その保全に向けた政策策定過程に取り込まれているのかどうかについては疑問が残るところである。この問題意識は、今回の訪問先のうち、廃業した Hin Bus 社の駐車場を改築して芸術家や起業家に貸し出している Coex や、芸術系教育 NGO の Arts-ED でも共有されていた。Coex の取り組みは、商業的な成功以上に地元のコミュニティーの人々の日常生活に変化をもたらし、その連帯を強化することを目指している。また Arts-ED は、多様な文化的背景を有する住民、特に若者に対して、無形文化財の価値を認識してもらうための教育的取り組みを展開している。

コロナの影響に関しては、観光が一大産業となったジョージタウンにとってそのインパクトが大きかったことは言うまでもない。もっとも、現在では観光客の数も



コロナ以前を上回るようになってきている。マレーシア科学大学との意見交換において、Khoo Suet Leng 博士は、コロナ禍がもたらしたポジティブな影響として、伝統的産業のデジタル化の促進や、公共スペースの整備に向けた取り組みの進展を指摘した。

#### 4. 終わりに

コロナ禍を経て、アジア都市に住む人々の生活圏がどのように継承、変容しているのかに関心を寄せてきた本研究チームにとって、ペナンの事例は示唆に富むものであった。ジョージタウンが抱える課題に、今後様々なアクターがどのように取り組んでいくのか、継続的に注視していきたいところである。

今回、短期間で多くのインタビューと視察が可能になったのは、一重に研究会メンバーの西堀隆史先生を介して、Joe Sidek 氏(ジョージタウン・アートフェスティバル・ディレクター)と Clement Liang 氏(PHT 評議員)がアレンジとアテンドを一手に引き受けてくださったことによる。この場をお借りして深く謝意を表したい。



写真7: マレーシア科学大学との意見交換

- 1 UNESCO ウェブサイト (<https://whc.unesco.org/en/list/1223>) より要約。最終アクセス日:2024年5月22日。
- 2 宇高雄志、岡本祐紀「植民都市における都市計画制度の導入とその今日的影響-マレーシアの家賃統制令の廃止と市街地変容をめぐって」『日本建築学会計画論文集』第529号211-216頁、2000年。
- 3 PHT もメンバーの一員である。
- 4 Khoo Suet Leng 博士提供資料による。
- 5 同上。